

目 次

次回大会予告.....1	幹事会議事録.....4
大会シンポジウム趣旨説明.....2	寄贈図書紹介.....5
教育基本法「改正」に関する緊急声明についての報告...2	学会誌『女性学』の販売促進にご協力ください.....6
教育基本法「改正」の経緯とこれから.....3	研究会のお知らせ.....6
幹事のお仕事(2).....4	会員情報.....(別紙)
研究会報告「暴力AV研究会」.....4	

次回大会予告

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 東京都千代田区富士見2-17-1

JR 総武線「市ヶ谷駅」または「飯田橋駅」から徒歩10分

東京メトロ：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

都営新宿線市ヶ谷駅徒歩10分 都営大江戸線飯田橋駅徒歩10分

シンポジウム：バックラッシュをクィアする

—性別二分法批判の視点から—

大会日程

1日目 6月9日(土)

13:00~16:30(予定)

シンポジウム

その後総会、懇親会

2日目 6月10日(日)

10:00~12:00(予定) 個人研究発表

13:00~15:00(予定) ワークショップ

*保育を予定しています。詳細は次号をご覧ください。

個人研究発表とワークショップ申し込み受付について

タイトルと発表の概要(200字程度)、発表時に使用する機材(機材は希望にそえない場合があります)を記載して、3月20日までに、ニューズレター担当の木村涼子・伊田久美子まで、メールかファックスでお申し込みください。

ワークショップ：木村 涼子 kimura@hus.osaka-u.ac.jp fax:06-6879-8115

個人研究発表：伊田久美子 idak@hs.osakafu-u.ac.jp fax:075-791-9273

*ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人報告とは性格の異なるものです。

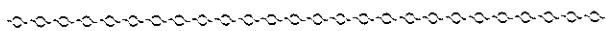
*個人研究発表は、共通テーマでのパネル応募も可能です。人数は3人以上とします。各報告の発表時間の公平性と質問の時間を十分にとることにご留意いただき、時間の配分、司会者等を申込者で設定してください。

大学院生等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生・院生・OD等、常勤職に就いておられない方には、学会より旅費の補助をします(総額10万円を、人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です)。希望される方は、報告申込のさい、「旅費補助希望」と明記してください。

のは残念に思う)。しかしこれらの反対運動についてマスメディアは徹底して無視し続けたために、多くの市民は、この問題の重要性に気づいていなかった。また私は何度か国会傍聴をしたが議論の内容は本当にお粗末で、ただの時間稼ぎ、真剣さもなく国民を愚弄していた。とくに衆議院特別委はひどかった。民主党が「改正」を前提としていたことは今回「改悪」を許した最大要因だった。参議院特別委では、国会外での反対運動の広がりややらせ問題などの実情が明らかになるにつれ容易に採択というわけにいかなくなった。12月5日、参議院特別委員会での神本美恵子さんは日本女性学会幹事会の「緊急声明」を手に「改正」案は、明らかにジェンダー平等政策の撤退であることを指摘した。しかし初めに成立ありき、急速に大きくなってきた反対の声は黙殺された。

今後の課題として現憲法下では新法は違憲立法であることに間違いはない。廃案にしていくためには新法への批判的世論を高めることが重要だ。また1月末に始まる通常国会に学校教育法をはじめ関連法案が国会に提出されることになる。新法第17条教育振興計画を策定にも取り掛かるだろう。新法の実効性をもたせないために関連法案成立をさせないこと、監視する運動も必要である。しかしなんといっても憲法改悪を阻止していくために統一地方選、7月の参議院選で安倍首相を退陣させること、そのための野党の連携が今、一番必要だと痛感している。今回のように数の暴挙を許さないために。



■幹事のお仕事 (2) ニュースレター

一幹事会活動の実際を担当幹事が紹介します。

ニュースレターは年間4回発行します。学会大会や総会の案内、報告がメインの記事となります。大会が年1回となってからは会員の研究会への助成を行っています。そうした研究会のお知らせや報告、それに会員に有用な情報の提供や会員相互の情報交換の場として機能することを心がけております。

もうひとつこの間心がけているのは、幹事会がどんな活動をしているかを会員にできるだけお知らせすることです。そのために数年前から幹事会議事録を掲載しております。また今期は「幹事のお仕事」というコラムを設けて、学会運営のさまざまな事務仕事を紹介しています。

メールのおかげで、執筆者や印刷所との原稿のやりとりは本当に楽になりました。それでもときどきは、お世

話になっている京都の印刷所へ出向くことも必要です。原稿を集め、印刷所に送り、校正のやりとりをし、一段落するとまもなく次の号の準備をしなければならない時期がきます。けっこう1年中仕事の切れ目がない状態です。

幹事会だけでなくできるだけ会員みなさんに書いていただくことを目指しています。原稿の依頼があれば、是非ご協力くださいますよう、お願いいたします。

(伊田久美子)

■研究会報告「暴力AV研究会」 11月24日

11月24日金曜日都内で開かれた暴力AV研究会は、日本女性学会から1人の参加者を得、APP研究会会員の参加もあり、企画者の司会とインタビューによる有益で濃密な2時間強の時間をもつことができた。報告者の誠実で詳細な報告により重要な事実をたくさん知ることができた。とくに、プロダクションとメーカーの役割の違いよくわかり、大きな収穫があった。

事前に用意した質問への丁寧な答えは、一般には知られていないことが多く、AV業界の実態と問題点が、現場の方から網羅的に語られた、初めてのものになると思われる。(二瓶由美子)

*研究会(会員企画)を随時募集しています
研究会担当幹事にお申し込み下さい。
伊田広行(henoru@tcn.zaq.ne.jp)

■幹事会議事録

2006年度第6回幹事会

2006年12月25日(月) 13:00~18:00

国立社会保障・人口問題研究所

出席：合場、伊田(ヒ)、伊田(久)、井上、内海崎、
風間、釜野、千田、武田、船橋、吉原
欠席：海老原、木村、佐藤、田嶋

報告事項

- 1) 教育基本法改悪反対の緊急声明について
国会や、文科省関係の動向を確認
今後は計画や運用のレベルでの改悪阻止をめざし、具体的な計画、学校教育法、社会教育法改正の段階で要望を出す方向で取り組むことを確認。
他学会、女性学関連学会との連携も模索する。

2) 大学評価、学位授与機構への専門委員候補者を推薦した。

3) 日本学術会議社会学系学術懇談会について井上幹事からの報告があった。

学術会議の組織替えにより、学会は単なる協力団体になるため、協力団体同士のネットワークを作りたいという趣旨で、社会学研究連絡会登録団体への呼びかけがあり、参加を承認した。

系列ごとのコンソーシアム以外に、学際連合の形でジェンダー関連ネットワークを立ち上げようという動きもある。

4) 学会誌販促について

ニューズレターの発送時に注文票を同封した。事務手数料15000円を費やし、22冊の注文があった。セット販売は5部の申し込み。

次号にもう一度注文票を同封し、大学図書館での購入を目指す。

5) 学会誌編集の進捗状況

論文3本 入稿もかなりすすんでいる。

6) 次々回大会開催候補

2008年は学会30周年に当たり、記念イベントを考える必要がある。

女性学会4団体でのイベントも検討する。

7) メールニュースへの返信について

返信できないことになっているが、今まで数通の返信があり、対応してきた。業者との契約内容には入っていないため、返信できないという原則を再確認。

審議事項

1) 次回大会のテーマ、タイトルについて：

風間幹事の説明を受けて議論し、3月研究会でさらに議論を深めることになった。

タイトルは、「バックラッシュをクイアする一性別二分法批判の視点から」

2) ニューズレター内容の確認

原稿締め切り：1月15日 2月15日刊行予定

3) 財政健全化についての提案：会計担当幹事より2002年に繰越金を崩し始め、支出が基礎的収入(会費+学会誌売り上げ)を超えている状況を改善するためには、当面収入増加が期待できない以上、支出を削減する必要がある。そのために、ニューズレターの回数を減らす。印刷費+郵送料により、かなりの経費節減となる。当面11月を減ら

す方向で検討する。

1号減らすことでどれだけ経費削減できるかを概算する。

4) 事務局の幹事会参加は、必要時に業務として来てもらうことを確認。

5) 旧ワーキンググループについて

第12期幹事会(2003~4年)セクシュアル・ハラスメント防止規程策定ワーキンググループ活動に関して生じた問題について、当時のメンバーから現在も解決に向けて努力中であるという報告および現幹事会への検討依頼があり、継続審議することになった。

6) 学会誌上での英語の取り扱いについては継続審議

次回日程 3月31日(土)

大会シンポジウムに向けた研究会(10時から)
+幹事会(1時から)

■寄贈図書紹介

狩谷あゆみ編『不埒な希望 ホームレス/寄せ場をめぐる社会学』 松籟社 2,200円

ベル・フックス『自由の実践としてのフェミニズム教育とびこえよ、その囲いを』 里見実訳

新水社 2,800円+税

岩淵宏子、長谷川啓『愛・性・家族』

東京堂 2,200円+税

田間泰子『「近代家族」とボディ・ポリティクス』

世界思想社 3,200円+税

女性の家HELP(編)『希望の光をいつもかかげて：女性の家HELP20年』

日本キリスト教婦人矯風会 1,000円

杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束(編著)

プロブレムQ&A『パートナーシップ・生活と制度』

【結婚、事実婚、同性婚】 緑風出版 1,700円+税

お知らせ

柳澤厚生労働大臣の「産む機械」発言に対する抗議声明文を、会員の大本良子さんのご協力を得て2月2日に幹事会名で提出しました。声明文は学会ホームページに掲載されています。ニューズレター次号にも掲載する予定です。

＜再 掲＞

学会誌『女性学』の販売促進にご協力ください

第14期幹事会学会誌販売促進担当幹事 武田万里子

かねてより学会誌『女性学』の売れ行きが低迷しており、学会財政は厳しい状況が続いています。在庫も拡大し、倉庫保管料を新たに負担せざるをえない状況になっています。女性学の普及のためにも、会員の皆様に、学会誌の購入・販売促進へのご協力をお願いいたします。

1. 学会誌のバックナンバーをお持ちでない方は、同封の「注文書」で、新水社に直接ご注文ください。割引があります。
2. 勤務校などの図書館に女性学のバックナンバーがそろってない方は、欠号をご購入ください。
3. 現在創刊号が品切れです。創刊号を復刻し、創刊号から13号まで全号揃セット定価31000円（直接販売の場合、割引あり）で販売予定です。一定数の予約注文が取れ次第、復刻いたします。創刊号が復刻されれば、バックナンバーを図書館などにセット購入していただける方は、同封の「予約注文書」を、学会事務局（Fax：047(370)5051）まで、お送りください。
会員の皆様の、ご協力をお願いいたします。

研究会のお知らせ

2007年の大会シンポジウム『バックラッシュをクイアするー性別二分法批判の視点からー』に向けて、発表予定者を中心に、事前研究会をしたいと思います。

参加はどなたでも可能です。なお参加希望者は、事前に研究会担当幹事の伊田広行 (henoru@tcn.zaq.ne.jp) あてにご連絡ください。

なお、当日の駆け込み参加もOKです。

発題予定

風間 孝「若者のセクシュアリティと性的マイノリティ
ー性教育バッシングの影響を考えるー」

他1、2名

日 時：2007年3月31日（土曜日）10時から12時半

場 所：国立社会保障・人口問題研究所
（日比谷国際ビル6階）